

# パンタナール通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報

2026年4月1日 271号

世界平和地球村の建設と自然環境の保護

## レダでつながる若者たち

2022年3月に島田さん家庭が移住した時から、レダは開拓者たちの子世代が担う2世時代、そして単身者から家庭の時代へとシフトアップしました。あれから4年。今、多くの2世世代がレダプロジェクトに参加しています。今後はそんな、レダを起点に志を持って集まる若者たちをご紹介して行こうと思います。今回はその第1弾として3人の若者に聞きました。

### 「もう一つの現場」

小山莉奈さん

南北米福地開発協会の事務局を、フィリピンから支える若き母がいる。小山莉奈さん。2016年にレダツアーに参加して以来、レダユース(レダを経験した若者達の日本での活動



大ピラニアを釣った小山さん。2016年9月レダ

への参加を経ながらレダへの思いを温め続け、2025年、事務局海外サポーターとして本格的にプロジェクトに合流した。二児の母でありながら、事務局業務にとどまらず、SNS運営や動画編集など広報面でも力を発揮する彼女に話を聞いた。

◆編集 レダとの出会いを教えてください。  
●小山 2016年、第16回レダツアーに参加したのが最初です。パラグアイで長年現地活動をされてきた佐野先生と私の母が、チリにおける活動のご縁で以前から交流があり、レダの話を知りました。パラグアイでは、大自然の中で、人と自然が共存している姿に衝撃を受けました。「こんな場所が本当にあるんだ」と。あの体験がずっと心に残っていて、いつかレダに関わりたいという気持ちがありました。

◆編集 それから約9年を経て、事務局員になりました。  
●小山 はい。最初は会員名簿の管理など事務的な仕事を中心でしたが、SNSの運営や動画編集もやってみないかという話になり、今ではインスタグラムやフェイスブック、LINEの管理、それから会議内容をまと



小山さんの家族。フィリピンにて。2026年

めた動画、クラウドファンディングの動画制作など、広報の仕事にも広く携わっています。

◆編集 フィリピンからのリモートワークですね。  
●小山 2022年からフィリピンに住んでいます。主人はフィリピンとタイにルーツを持つ人です。今は3歳と1歳の子供がいるので、日々の育児と両立しながらの活動です。日本との時差は1時間。オンラインでできる仕事が多いので、距離はあまりハンデイになりません。

◆編集 広報で意識していることは？  
●小山 レダの魅力が「知らない人」に届けることです。現地の空気感や、プロジェクトに関わる人たちの熱量は、文章だけでは伝わりにくい。だから動画の力は大きいと感じています。今は会議のまとめ動画が中心ですが、もっとレダの自然や現地の暮らしが伝わるコンテンツを増やしていきたいですね。

◆編集 お子さんを育てながらの活動に、大変さはありませんか？  
●小山 正直、大変です(笑)。でも、子供がいるからこそ、次の世代に何を残せるかを真剣に考えるようになりました。レダは理想郷づくりのプロジェクトです。自分の子供たちが大

きくなった時に、「お母さんはこの場所をつくる手伝いをしていんだよ」と言えたら、それはすごく意味のあることだと思っています。

◆編集 将来、レダに住む可能性は？  
●小山 家族のこともあるので、すぐにはいきませんが、気持ちとしてはあります。まずは今、フィリピンからできることを全力でやっていきたいです。(次面につづく)

**FUJU 藤生がレダのFUJIYU不自由に挑む物語**  
勝利のための5つの技術  
重機 船舶 通信 言語 撮影

南北米福地開発協会の新代表理事、藤生輝彦(ふじゅうてるひこ)57歳が新たな物語を紡ぎだす...

「私、藤生は、来たる5月のレダプロジェクトに参加し、4度目の現地へ赴きます。ところが、今のレダプロジェクトには、発展を妨げている深刻な課題があります。

圧倒的な人材不足と、現地の事情魅力が十分に見えないことです。この環境的ボトルネックを解消していくために、重機、船舶運搬、通信、言語、撮影の5つの技術を藤生が授かり、パワーアップすることで、レダ現地の「不自由」を克服していく物語、それがプロジェクトFUJUです」

FUJUが5つの力を入手するための資金をクラウドファンディングで集めています。ご協力ください！

お知らせ  
クラファン  
PROJECT  
FUJU  
V

# 『岩本1:6!!』

## 新人岩本さんの改善策で、稚魚生存率が1:6倍に!

### 水産担当・岩本聖義さん(26)



池入れの前に稚魚を数えます。右が岩本さん。

2026年1月に再びレダ入りし、水産スタッフに再加入。日本の水産業で学んだ知見をレダ水産でさっそく発揮。先月号で聞き切れなかった養殖の細部を今回聞いた。

**Q1** 今回の赴任で、大きな改善ができたと聞きました。

**●岩本** はい。パクーの孵化後の稚魚の生存率を大幅に上げることができました。生存率が上がったのには様々な要素が絡んでいる可能性がありますが、今回、自分が気付いて変えて行ったのは「餌の与え方」です。

稚魚の初期飼料にはアルテミアという微小な甲殻類の動物性プ

ランクトンを使うのですが、これまでは与え方によりロスがあったと思われました。アルテミアをあまり良くない状態、つまり弱ったり死んだりした状態で与えていたと思われるのです。そうなるので、数万尾の稚魚がお腹を空かせているのに、数匹分しか食料がない。極端に言えばそんな状態になっていた可能性がありました。

それがわかったのは、現地に保管してある水産の記録ノートを読んでいた時でした。餌に関してあまり繊細には取り扱いはしていませんでした。

アルテミアは乾燥卵を購入して塩水などで孵化させた幼生の状態で魚に与えるのが一般的です。そのアルテミアが孵化して最も活発に動き回っている瞬間、即ち活性が最も高いタイミングで稚魚に与えるよう徹底しました。

稚魚は動くものに反応して食いつくので、元気に泳いでいるアルテミアを与えることが決定的に



レダの養殖池で、水揚げ時に未成魚を別の池に移す。

重要なのです。逆に、動きが鈍くなったものをいくらか与えても、稚魚はほとんど食べてくれません。

結果として、孵卵器で孵化した稚魚のうち、池に移せるまで育った割合が、以前の約5割から約8割へと増加しました。生存率にして1:6倍の改善です。長年の課題だった初期減耗を、餌の管理一つで大きく改善できたのは、大きな手応えでした。

**Q2** 今後の展望を教えてください。

**●岩本** 現在レダで養殖しているのは、パクー一種だけですが、今後、扱う魚種を増やしたいです。魚種を増やすことは滝川さんはじめ皆さん考えているのですが、人材不足もあり、なかなか手を伸ばせざにいます。自分が今回パラグアイでいくつかの場所を視察して得た情報も考慮

候補として考えています。ボガ、マンデリー(ナマズ的一种)、そして、以下の3種の導入を提案



従業員の家を村に訪ねて交流する岩本さん(右)

係を築くか。それが自分にとって最も大切な課題だと感じています。たくさんコミュニケーションと、そして共に働く時間の中で少しずつ積み上げることでの信頼関係を。共に歩む仲間であり、お互いを尊重する関係でありたいと考えています。

**Q4** 岩本さんが投稿したレダの動画の反響が凄いです。

**●岩本** はい。Facebookとインスタグラムで投稿したショート動画が予想外の反響で驚いています。レダの水産活動を紹介する短い動画を投稿したところ、わずか4日ほどで再生回数が100万回を超えたのです。(左のQRコードから視聴いただけます)

「日本人がチャコの大自然でパクーを育てている」その事実に、これだけの関心が集まった。この数字は、日本人が行っているこの事業に、現地の方々が寄せている期待の大きさを、目に見える形で示してくれたと思っています。これをきっかけに、日本でもレダへの関心を持つ方や参加してくださる方が増えることを期待しています。

**Q3** 現地で感じている課題はありますか？

**●岩本** やはり、現地従業員の皆さんとの信頼関係ですね。レダで長年積み上げてきた経験と誇りを持つ従業員たちと、どう信頼関

話題のレダ水産100万再生動画はこれ! 下記URLはタップ可。  
<https://tinyurl.com/mu5n6ypp>



# まだ届いていない 魅力を映像で

## SNS動画特命係長！ レイナ

広報担当・山崎怜奈さん(26)

◆編集 まず自己紹介と現在の  
お仕事を教えてください。

●山崎 神奈川県出身の26歳で  
す。韓国の大学でメディアコミュニ  
ケーションを専攻し、映像制作  
や広告・広報を学びました。卒業  
後、いくつかの就職活動を経て、  
建設や飲食事業を手がける会社  
に広報担当として入社しました。  
SNSの運用、映像制作、グラフィッ  
クデザイン、ホームページの管理  
やSEO対策まで、会社の「伝え



働く山崎さん

る「仕事を一  
人で幅広く  
担当していま  
す。

◆編集 レダ  
に関わるよ  
うになった  
きっかけは？

●山崎 ある  
日、自分の教  
会でレダ関連  
の説明会があ  
り、その現場  
体験を語って  
くれる方が来  
たのです。そ  
の方が以前、  
修練会で班長をしてくださって  
いた河野さんでした。久しぶりに再  
会して「どんな仕事をしている  
の？」という話になり、映像やデ  
ザインの仕事をしていると伝えた  
ら「レダのチラシを見てくれない  
か」と。正直、その時のチラシを見  
てもっと若者に届くものが作れ  
るのではないかと思って、「手伝え  
ることがあれば言ってください」と  
お伝えしたら、とんとん拍子で話  
が進みました。

◆編集 もともとレダへの関心  
はあったのですか？

●山崎 はい。中学生の頃、修練  
会で柴沼先生からレダの紹介を  
聞いたのが最初です。青葉台のコ



フィリピン、セブ島でアジアゾウやニシキヘビ(アルビノ)と触れ合う。

ミニティー  
では年に一  
回くらいレ  
ダの話を見  
る機会があ  
つたので、「い  
つか行って  
みたいな」と  
いう気持ち  
はずっとあ  
りました。  
それに加え  
て、自然が  
とにかく好  
きなんです。  
山登りをし  
たり、海外  
で動物と触れ合ったり。この前も  
セブ島で蛇や象に触ってきました  
(笑)。南米のジャーナリストのド  
キュメンタリーもよく観ていて、  
「日本とはこんなに違う世界があ  
るんだ」とワクワクしていました。

◆編集 レダプロジェクト  
での役割は？

●山崎 レダのSNS動  
画を企画・制作して発  
信していく役割です。



谷川岳にて

今のレダのSNSは、記録した  
動画をそのまま上げているよう  
な状態なんです。でも、レダの  
素材は最高なんです。大自然の  
中で日本人が普通は体験できな  
いことを体験できる場所。  
演出さえすれば、一般の人にも  
絶対に届く。短くてキャッチーな  
動画を作って、「面白そう」と引  
かかってもらうところから始め  
たいと思っています。

◆編集 映像で届けたいとい  
う想いの原点は？

●山崎 高校生の時、教会の修練  
会でフィリピンのスラム街を訪れ  
たときのことです。韓国以外では  
初めての海外でした。ポロポロの  
服で裸足の子どもたち、飢をあげ  
て、涙が止まりませんでした。  
でも、ちよつと音楽を流すとみ  
んなで踊り出して、私たちが帰る  
バスを追い駆けてかけてきて、「ま  
いします。

た来てね」と。日本にはない、ある  
種の心の豊かさがそこにはありま  
した。あの体験が、「もっと多くの  
人にこういう世界を知ってほしい」  
という想いの原点です。

◆編集 以前、伝道活動をされて  
いた経験もあるそうですね。

●山崎 大学時代に半年間ほど、  
街頭に出て毎日のように伝道活  
動をしていた時期があります。で  
も結局、半年で一人にしか伝え  
られなかった。その方はずっと喜  
んでくださったし、私自身も成長  
できた大切な経験です。ただ、現  
实的に「もっと効率のいい届け方  
があるはずだ」と強く感じました。  
SNSやメディアという媒体を  
使えば、一度作ったコンテンツが  
何万人にも届く。私たちのビジョ  
ンや活動を映像やコンテンツとし  
て噛み砕いて届けられるにな  
りたい。それが私の目標です。

◆編集 読者にメッセージをお願  
いします。

●山崎 レダは、普通の人々が体験  
できないことを体験できる、希少  
価値の高い場所です。素材として  
は最高のものが揃っている。あと  
は発信力さえあれば、いろんな道  
が開けると信じています。SNS  
を見て「面白そうだな」と思っ  
てくれる人が一人でも増えたら嬉  
しいです。ぜひ、これからのレダの  
SNSに注目してください。

# レダの電気屋さん



## 第33回

### レダの昆虫

今回は昆虫ねたです。ふと、部屋の中にセミがいたので手に乗せて写真を撮ってみました。

写真からわかると思いますが、レダにはこんな、体長が2cmにも満たないほどの小さなセミがいます。なぜか南米と聞くと大きな昆虫をイメージしてしまいがちですが、意外と日本で見るよりも、小さな昆虫もいるのです。

もう一つ、右下のカマキリは小柄なうえにとっても細く、一見カマキリとは思えないほどですが、形を見てみるとカマキリなんです。

レダにいる昆虫に大体共通している特徴として、人に対する警戒心が少なく、動



部屋に入ってきた小さなセミ。3月15日



翅を除く体長60mm  
木の幹で鳴いていた大きなセミ。12月8日



レダの小さなカマキリ  
8月28日

きも比較的ゆっくりしています。なので、このセミも簡単に手の上に乗ってもらったことが出来ました。

これは、人による淘汰を受けていないということ、自然が豊かで生存競争が比較的穏やかだということが理由なのではないかと、勝手に推測しています。

争わずに安心して生きられる環境で育てば、人も動物も穏やかになるのではないかと、レダの昆虫を見ながら思いました。(山崎茂章)

### レダ緊急事態宣言!

#### ピンチと希望

【希望】レダの水産事業部門、PezPeranzaのインスタグラム投稿動画が投稿から3〜4日で百万回再生を超え驚いている。今までは多くて二千回強の視聴数だったものが、突然百万回を超えてまだ伸びている。

これは、パラグアイにおける水産養殖に対する期待値が数字が出てきたものだ! と、水産担当の岩本さんは力説する。▼【百万動画】一百万回再生の動画は、パクー養殖の作業の様子を紹介したわずか17秒の動画だ。その映像自体はレダを長年見てこられた方にとってはそんなに新鮮味のある素材ではないと思う。動画にはこんなナレーションがついている「日本人がパラグアイでパクーを育てている! この時期はパクーの稚魚の育成が始まる。池には5万尾以上の稚魚がいる! 今は少しずつ大きくなってきて

#### 次期編集長のつぶやき



いる。チャコの大自然で日本人がきたところだったが、現段階ではまだ日本からの兵糧が必要だ。しかしその兵糧が三分の一以下に減少。これではレダを維持できる計算ができない状態。▼【レダ2世の会】これまではレダの金策は主にレダ開拓1世世代が担当してきた。しかし、今レダ・パラグアイで活躍する2世世代も立ち上がっていく動きを見せている。レダ家庭のサバイバル。繋いできたスピリットのサバイバル。多くの仲間が生き残りをかけたシビアな闘いを始める時だ。▼【サイン】本号ではレダが集まる希望的な若者たちを紹介した。そこに不思議な符合がある。小山莉奈さんと山崎怜奈さん、二人とも名前に山と奈の文字があるリナとレイナ。小山さんは今レダに居る「電気屋さん山崎」の娘さんと一緒にレダで活動した。小山と山崎と山崎が、どうしても繋がる。こういうシンクロがある時は天のサインだ。▼【レダを守る】ここで、レダ・南米の火を消すことはできない。何としても踏ん張る。3年あれば魚がレダを食べさせるようになっていく。今後の発信に注目してほしい。(原田経史)

産担当の岩本さんは力説する。▼【百万動画】一百万回再生の動画は、パクー養殖の作業の様子を紹介したわずか17秒の動画だ。その映像自体はレダを長年見てこられた方にとってはそんなに新鮮味のある素材ではないと思う。動画にはこんなナレーションがついている「日本人がパラグアイでパクーを育てている! この時期はパクーの稚魚の育成が始まる。池には5万尾以上の稚魚がいる! 今は少しずつ大きくなってきて

ら問い合わせが殺到している。対応しきれないほどの反応。▼【繰り上げと人材確保】水産チームは諸々の計画を半年ほど繰り上げる必要が出てきている。このオーダーに対応するには販売員の増員や販売に使う車両も購入する必要がある。人と資金があれば、パラグアイ・レダの水産は実績を上げていくことができるのだ。▼【ピンチ】レダは水産の希望がありながら、今、存続のピンチを迎えている。水産事業によるレダ運営のための経

一般社団法人  
南北米福地開発協会 事務局  
〒182-0021  
東京都調布市調布ヶ丘 2-15-1  
ピリアベルデ 407  
電話: 042-449-0183  
メール: office@asd-nsa.com  
ホームページ: https://asd-nsa.com

#### パンタール通信 電子版 (Blog)



日・韓・西・英・ポの5か国語。スマホでもパソコンでもお読みいただけます。

#### LINE公式アカウント

#### レダの日常・日本の非日常



レダ現地の様子、プログラム・イベント通知・参加者募集案内などを配信します。  
←友だち追加はこちらから。